

2024年3月15日（金曜）

全労金2024春季生活闘争ニュース・第17号

～勝ち取ろう賃金改善！進めようジェンダー平等！みんなで一歩先のステージへ！～

第2回中央闘争委員会を開催！

「当面の取り組み・その4」を確認し、「最終交渉期間」の対応を確認しました！

◎統一回答期限日まで、本日を含め、あと3営業日！

2024春季生活闘争は、大手産別加盟の単組で次々と「満額回答」や「要求以上の回答」が示される回答状況が続いています。労働組合・政府・経済団体がともに「人への投資」「物価高に負けない賃上げ」の必要性を訴える中、労働組合はもちろんのこと、企業もその社会的責務を果たすために、懸命に労働組合の要求に応える努力を重ねた末の回答だと認識しています。全労金は、こうした状況の中、第2回中央闘争委員会を開催し、直近の交渉状況を共有するとともに、来週19日に迫った統一回答期限日に向けて、最終交渉期間の対応を確認しました。

全国の交渉状況は、基本合意を表明した沖縄労組のように、労働組合の要求主旨を受け止め、要求に沿った回答を示す金庫がある一方で、まだ要求した水準の回答には至っていない金庫もあります。そのため、単組闘争委員会は、要求に沿った回答が示されるように、今もなお、粘り強く交渉を続けています。

全労金2024春季生活闘争は大詰めを迎えています。最終交渉期間に向けては、第三次交渉期間までの交渉状況を踏まえたうえで、単組・組合員が納得できる回答を引き出すための交渉戦術（交渉体制・交渉日程の見直し、争議行為等）と、具体的な展開が必要です。

今週末には、多くの単組で闘争委員会や拡大闘争委員会等が開催され、具体的な交渉戦術についての検討が進められます。組合員の総意で確立した要求を貫徹すべく、今こそ皆さんの声を単組闘争委員会に届けて、一丸となった闘いを展開しましょう！！



《第2回中央闘争委員会の様子》

※次号は、3月18日に発行します！

※裏面に、連合・芳野中央闘争委員長のコメントを掲載しています！

先行組合の勢いを中小組合・社会全体へ波及させよう！

2024春季生活闘争

ヤマ場の回答引き出し状況に対する芳野中央闘争委員長コメント

2024年3月14日

日本労働組合総連合会

1. 幅広い産業で要求の趣旨に沿った回答が進む

私たち連合は、2024春季生活闘争を経済も賃金も物価も安定的に上昇する経済社会へとステージ転換をはかる正念場と位置づけ、昨年を上回る賃上げですべての働く仲間の生活向上につなげていく方針を掲げた。2月末までに賃上げを要求した組合数は昨年を大幅に上回った。先行組合回答引き出しのヤマ場（3月12～14日）に向けて、「要求の趣旨に沿った最大限の回答引き出しに全力をあげる」とともに、「総力をあげて後に続く組合の交渉環境を支える。同時に労働組合のない企業の賃上げに向けた世論醸成に取り組む」ことを確認し交渉を進めた。その結果、幅広い産業の労働組合が要求の趣旨に沿った回答を引き出した。

2. 新たな経済社会へのステージ転換に向けた大きな一歩として受け止める

現時点までに示された回答は、産業による違いはあるものの、多くの組合で、連合が賃上げに改めて取り組んだ2014闘争以降で最高となる賃上げを獲得している。労使が、デフレマインドを完全に払しょくし、新たな経済社会へ移行する正念場であるとの共通認識のもと、物価高による組合員の家計への影響、人手不足による現場の負担増などを踏まえ、産業・企業、さらには日本経済の成長につながる「人への投資」の重要性について、中長期的視点を持って粘り強く真摯に交渉した結果と言える。有期・短時間・契約等労働者の賃上げ結果も、格差是正に向けて前進できる内容と受け止める。先行組合が引き出した回答内容を中小組合、さらには組合のない職場へと波及させていくことで、すべての働く者の生活向上につなげていかなければならない。

3. さらに一歩のため、高い水準での相場波及に総力をあげる

3月13日に開催された「政労使の意見交換」においては、中小企業や労働組合のない職場で働く者を含む「みんなの賃上げ」の重要性を訴えた。岸田首相は「中小・小規模企業における十分な賃上げによって裾野の広い賃上げが実現していくことが大切」であり、政府として「賃上げの流れを継続できるよう、あらゆる手を尽くす」と述べ、出席した労使団体や各省庁に協力を呼びかけた。先行組合が引き出した回答は、総じて後に続く組合を勇気づけるものである。各組合においては、要求の趣旨に沿った回答を引き出すべく、最後の最後まで粘り強く交渉していただきたい。連合は、これから労使交渉が本格化する中堅・中小組合が最大限の回答を引き出し、早期に解決できるよう、構成組織・地方連合会と一体となってサポートしていく。

以上